国際関係学部 国際関係学科 専門教育分野 TLO: Target and Learning Outcomes

授業科目区分	授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	科目種別 講義 演習 実習 PBL など	単 位	主 要 科 目	1. 科目の目的 授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を 狙いとするか。	2. 科目の到達目標 授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の 達成を目指し、何を到達目標とするか。	3. ディプロマポリシー						
									DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
									多角的な視 野から知識 の幅を広げ 教養を身に つけている	国際関係分 野の専門知 識とその応 用に必要と するコミュニ ケーション力 を身につけ ている	国際社会の 多様な価値 観や文化を 理解し、自 立して協働 して多角的 かつ批判的 な思考をも とづいて問 題の解決に 取り組むこ とができる	国際社会に おける問題 の理解と解 決に必要な 情報やデー タを収集・分 析し、論理的 かつ協働し て多角的な 思考をもと づいて問題 の解決に取 組むことが できる	市民として社 会に対して関 心を持ち、グ ローバルな 視座から国際 関係の幅広い 知識や見識 を社会に貢献 することができる		
卒業研 究	必修	国際関係学入門	M-IRE101	100	講義	2	○	国際関係学の全体像を提示し、2年次以降の専門科目履修に際しての学修計画の指針を提供する。	諸国際問題について、基礎的な理解ができ、全体像を把握できるようにする。	◎		○		○	
		基礎演習	M-SEM201	200	演習	2	○	国際問題に対する多様なアプローチを知ること、国際関係という学びの分野の全体像を把握させる。	国際問題について基礎的な理解をする。次年度以降の専門学修を計画立案する指針を作る。	○	○	◎			
		専門演習	M-SEM301	300	演習	2	○	学部の専門分野から選択し、その研究に必要な基礎知識と実践方法を少人数クラスで徹底して学ぶ。	専門研究の必修スキルである読解・調査・発表・討論等の能力を身に付け、さらなる学修の準備をする。			○	◎	○	
		卒業研究	M-SEM401	400	PBL	4	○	基礎演習での学修を踏まえ、さらに各専門分野についての知見と実践を深める。	高度な専門性を有する分野について、研究発表や論文執筆などの実践的な能力を身につける。	○		○	◎		
		戦争と平和	M-POL209	200	講義	4	○	古代から現代にいたる戦争の多様な側面を体系的に理解し、平和を実現する方策について考える。まず国家の形成や技術革新が戦争の変容とどのように関わってきたかを学んだ後、権力や制度によって平和がどのように模索されてきたかを考察する。	戦争と平和に関する基礎的な知識を習得し、平和を実現する為に市民一人一人がどうあるべきかを主体的に考える習慣を身につける。	◎			○		
		国際政治学	M-POL201	200	講義	4	○	紛争と協調の交錯する世界について、国内の政治過程との比較、大国の権力政治の展開、グローバルによる変容、に焦点をあてながら説明し、国際政治をみる眼を養う。	(1) 国際政治の多様な考え方を理解し、それらを組み合わせ分析をできるようにする。(2) 各国・地域の諸問題を国際関係のなかで捉え、両者の相互作用を説明できるようにする。		◎		○	○	
		国際経済学	M-ECN210	200	講義	4	○	現代の複雑な国際経済の構造について理解し、国際経済に関する重要記事を読みこなすことができるようになるための学修を行う。	国際貿易論、国際金融論の基本的な内容について理解し、さまざまな国際経済問題について貿易、国際金融の両面から、理論的ツールを用いて考察することができる。			○		◎	○
		国際法	M-LAW201	200	講義	4	○	法の成立、解釈適用、執行に関して、国際社会と国内社会の違いを把握することにより、国際法の性質(形式、効力)を理解し、さらに国際法がどの分野においてどのように適用されているかを理解することを目的とする。	国際法の本質を理解することにより、国際法を通じて国際社会がどのように秩序づけられているのか(秩序づけられていないのか)を、具体的な事例によって分析し理解し、それを自らの言葉で表現することを目標とする。			○		◎	
		現代外交論	M-POL207	200	講義	4	○	国家の対外政策ならびに国家間の外交交渉について、外交の制度化、政策の決定過程、交渉と国力との関係、に焦点をあてながら説明し、国際政治をみる眼を養う。	(1) 外交の基本的な考え方を理解し、現実の政策を批判的に分析をできるようにする。(2) 各国・地域の諸問題を国際関係のなかで捉え、両者の相互作用を説明できるようにする。			◎		○	
		政治思想	M-POL211	200	講義	4	○	政治学における基礎概念の思想的背景を提示することで、3年次以降の専門科目の履修に際して、諸論点をより根源的に理解するための思考力を提供する。	現代世界における諸々の政治問題に関して、先入見を排した独自の思考ができるようになり、自身の見解を精確に言語化することができるようになる。	◎			○	○	
		国際政治史	M-POL212	200	講義	4	○	17世紀にヨーロッパで生まれた国際体系が全世界的に拡大し、現代国際社会の基本構造となっていく過程について学修することを目的とし、そうした過程の中で発生してきたさまざまな歴史的出来事についてその思想的背景や影響、国際社会の構造変化について理解することを狙いとしている。	過去の歴史的出来事についてその背景や影響を学ばせ、現代国際社会との関連性について理解できるようにする。国際社会の構造変化を歴史的流れの中で理解できる。現代社会の思想的背景となっている宗教やナショナリズム、自由主義、民主主義、資本主義や社会主義といったイデオロギーや思想について理解できる。			○		◎	
		民主化の比較政治	M-POL213	200	講義	4	○	諸外国の政治体制や政治行動を分析するための基本的概念や理論的枠組みを検討した上で、民主化という体制変動の法則性や一般的原因を学ぶこと	1) 比較や類型化という分析手法の習得 2) 民主化やクーデターのような政治変動を客観的に認識し評価する能力の涵養 3) 東アジア諸国の政治の実態及び各国の抱える課題と本質的な理解	◎			○	○	
		比較文化論	M-POL214	200	講義	4	○	世界的な観点から見た日本という視点から、日本の特徴的といえる事象に重点を置いて、日本の社会や文化についてアジア諸国との比較検討を通じて理解を深める。	日本とアジア諸国との違いを比較を通じて理解できるようにするとともに、1) 他のアジア諸国と違う日本の独自性を見出すことができる。2) 日本社会の特徴をよりよく説明することができる 3) 日本の特徴を生かした未来への展望を築くことなどができるようになる。	◎			○	○	
		ナショナリズム論	M-POL304	300	講義	4	○	ナショナリズムについての理論的アプローチに触れ、ナショナリズムのもつ役割について、歴史的、理論的、事例別に検討する。	近現代においてナショナリズムが果たした役割を理解できるようにする。あわせて、自助努力を基本とした自身の頑張りが規範的市民になれるよう、健全なナショナリズム理解をもてるようになる。	◎	○			○	
		軍縮安全保障論	M-POL301	300	講義	4	○	日本への原爆投下を起点に核兵器の拡散および軍縮交渉の歴史の経緯を辿りながら、核問題の現状を踏まえつつ「核のない世界」に向けた軍縮と不拡散の方策と課題を探る。	軍縮・不拡散問題の変容過程を理解した上で、NPT、CTBT等の軍縮・不拡散の枠組みの現状と問題点を理解し、併せて日本の役割について自己の見解をもてるようになることを目標とする。	◎				○	
		国際金融論	M-ECN316	300	講義	4	○	グローバル化の中の金融現象に関わる理論および現実を理解し、国際関係学の学修を広義での経済学的視点からサポートする。	(1) グローバルな金融現象の理解する。(2) 為替レート決定を中心とした国際金融の基礎を学ぶ。(3) 国際財務活動の内容と金融派生商品の基礎的理論を理解する。	○	○			◎	
		比較憲法論	M-LAW309	300	講義	4	○	日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツの憲法を比較しながら、それぞれの類似点・相違点について、その理由とともに理解を深め、憲法を「自分ごと」として考える。	近代統治制度の特徴である「権力の制限」や「民主主義」の意義について理解できるようにする。類似の制度や現象を比較分析する比較研究の作法を習得できる。				○	◎	○
	国際ボランティア論	M-IRE205	200	講義	4	○	発展途上国で現在起きている貧困・環境汚染・格差拡大といった社会問題を理解し、公平で持続可能な社会を作るために、国際機関現地政府、コミュニティ等各アクターと連携しながら、市民社会として果たせる役割について考える。	(1) 本授業で取り上げるグローバルな問題について、問題が起きた背景を理解し、持続可能な開発目標(SDGs)と関連付けながら克服の方法を考える。(2) 問題解決に向けた市民社会の役割を理解し、現地政府、国際機関、コミュニティなど他のアクターとの役割分担や関係性を理解する。(3) 支援対象となる人々や地域の文化・習慣・価値観・社会の在り方などについて多面的に学ぶことの重要性を知る。(4) グローバルな問題とその克服に向けた多様な取り組みに関する情報収集能力が向上する。(5) 市民社会の担い手としての自覚を持ち、社会課題を見つけて、解決に向けた行動に結びつけることができる。				○		◎	
	国際援助技術論	M-IRE201	200	講義	4	○	国際社会で実施されている、様々な援助の形態やプレイヤーについて、学ぶ。あわせて、世界と援助が直面する課題についても、学ぶことを目的としている。	外交、ビジネス、研究などの分野で、援助の役割を理解する能力や、援助を通して、国際情勢を理解する能力を身に付けることを、到達目標としている。	○					◎	

授業科目区分	授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	科目種別 講義 演習 PBL など	単位	主要 科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. ディプロマポリシー				
							授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を 狙いとするか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の 達成を目指し、何到達目標とするか。	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
									多角的な視 野からの幅 広い知識と 教養を身に つけている	国際関係分 野の専門知 識とその応 用に必要と するコミュニ ケーション力 を身につけ ている	国際社会の 多様な価値 観や文化を 理解し、自 立かつ協働 して諸問題 に取り組む ことができる	国際社会に おける問題 の理解と解 決に必要な 情報やデー タを収集・分 析し、論理 的で多角的 かつ批判的 な思考をも つ問題の解 決に取り組 むことができ る	市民として 社会に對し て関心を もち、グ ローバルな 視点から 国際関係の 幅広い知見 や経験を 活かして 社会に貢 献すること ができる
② 国際 協力 国際 関係 学 科 専 門 分 野	国際理解論	M-IRE206	200	講義	4	○	国際社会の問題を知り、異なる価値観をもつ人々と共生し平和な社会を構築するための国際理解のあり方を、SDGsの「多様性の豊かさ」を基礎に身近なことから理解する。	複雑な国際社会の現状を理解し、多様な他者との協働を通して摩擦を乗り越えようとする態度を養い、問題解決のための思考力・判断力とそれを基にした実践力の獲得を目指す。			○	◎	○
	国際組織論	M-IRE212	200	講義	4	○	伝統的な国際組織がいかに機能し、あるいは機能出来なかったか、新たに世界はどう対応してきたのか、日本が具体的にいかに関わっていったかなどを検証する。	(1) 日本が重要な場で、いかに活躍出来たか、出来なかったか、などの眼を養う。(2) 国際組織がいかに機能できたか、出来なかったかの限界を理解する。(3) 将来の外交の場で、日本は如何に活躍できるか。(4) マスコミ、政府の言うことが、信じられるかどうかについて考える力を身につけることができる。	○			○	◎
	国際環境論	M-IRE215	200	講義	4		自然科学から社会・人文科学までの広い視点から、そして数々の事例によって、現代社会の環境問題とそれに対する対策の現状と課題を理解し、問題解決のための方策を考える。	環境保全について理解を深めるだけでなく、主体的に捉え、それぞれの立場で行動に結びつけていくことを目標とする。	○		◎		○
	国際NGO論	M-IRE213	200	講義	4	○	国際社会の諸問題の解決のために、NGOが各セクターと協働する中でどのような役割を果たすのかを理解し、実際の活動に必要な知識とスキルを修得する場を提供すること。	前半(理論編)はNGOの組織特性、マネジメント、問題解決プロセスについて体系的に学ぶこと。後半(実践編)は実際の活動に役立つ知識・知恵・スキルを身につけること。			○	○	◎
	ジェンダー論	M-SOC207	200	講義	4		ジェンダー概念についての理解を基本として、主として1975年以降の国連や日本政府の男女平等政策、男女共同参画社会の形成を中心に概観し、ジェンダーをめぐる諸課題、特に現代日本の少子化対策に関連して「性と生殖に関する健康と権利」について考察する。さらにフェミニズム(女性解放)や、セクシュアル・マイリテの主張、運動、性の多様性について理解を深める。	ジェンダーという概念や論点を理解し、具体例をもって説明できる。日本のジェンダー平等とその政策について国際的視点をもって説明できる。性の多様性と日本の状況について説明できる。ジェンダー視点から人権問題、「性と生殖に関する健康と権利」について説明できる。固定的な性別役割意識にとらわれず、自分自身の将来設計を描くことができる。			◎	○	○
	国際開発論	M-IRE202	200	講義	4	○	開発のエージェントである多国籍企業の活動と国際経済の成長の牽引役となる新興諸国の立場を踏まえ、長・短期的視点から学際的特性を備えた国際開発論に対する理解を深める。	人口動態の移行形態に伴い国際経済の重心のおかれる新興国を中心に、各国の文化的相違と組み分け関係下で提示される国際開発の主要課題に対し、開発経済学、開発政治学、開発社会学の視座を踏まえ総合的にアプローチできるようになる。	◎		○		○
	国際統合論	M-IRE309	300	講義	4	○	統合理論と統合の現実を対比しながら望ましい未来を展望するとともに、現代国際政治経済を理解する上での理論的・応用的視点を養う。	(1)ヨーロッパのEUなど、同時多発的に形成されつつある地域共同体を中心として統合の現状を把握する。(2)アジアにおける統合の必要性と可能性を考察する。	○		◎		○
	国際ジャーナリズム論	M-IRE325	300	講義	4		インターネット時代に「メディア」の果たすべき役割は何か。公正な国際報道はいかに作られるか。民主主義の国際社会における「ジャーナリズム」の存在意義とありかたを考察し、的確に分析する。	米中新冷戦など現在進行形の国際報道を中心に、思考力や分析力、問題発見力、方針決定力の向上をめざす。フェイスブックや小論文の作成を経て、社会人として実践で通じる情報発信力をつける。	○	○	◎		○
	国際人権論	M-IRE307	300	講義	4	○	人権概念の変遷と課題についての理解と、国際的な人権保障の枠組みについての理解ならびに日本国内の人権保障に関する国際的な責任について理解する。	人権概念とその国際的な保障枠組について理解できるようにする。また日本に課せられた国際社会における責務や国際NGOによる人権活動の意義も理解できるようにする。			○	◎	○
	国際資源論	M-IRE306	300	講義	4		日本および世界のエネルギーと環境、それに食料・農業に関連した資源全般の問題につき、広く、そしてできるだけ深く勉強し、日本の政策の注視点、世界の主要国の動向を考察する。	エネルギー、環境、食料・農業問題につき、制約条件を確認し、今後のライフスタイルを考え、各国間の利害が異なり、国ごとに意見が異なるざるを得ない問題と理解し、自分の意見を出す。			○	◎	○
	国際経営論	M-MNG310	300	講義	4		多国籍企業を母体に展開される国際経営を、日本企業を中心に理論的、実践的に理解し、説明できる能力を養うことで、成熟化した国際関係を企業戦略を通してより深く理解できるようにする。	第2ステージに入り、主たる舞台を新興国に移し展開される国際経営、特に日本企業における国際経営の実践的側面について、理論的に理解、説明できるようにする。			○	◎	○
	多国籍企業論	M-MNG315	300	講義	4		多文化世界を背景に、複数の企業群の織り成す価値の連鎖のネットワークとしての様相を持った現代の多国籍企業に対する理解を深め、21世紀の国際関係の課題に対し、特に日系多国籍企業の備える特性とその在り方を通して考察できるようにする。	内向化した時代、国際経済のけん引役を担う新興国を主たる舞台に活動する多国籍企業に対し、その経済潮流の先導役としての役割、多大な影響力について、グローバルバランスの進化論的側面を踏まえ、理解できるようにする。			◎		○
	日本政治史	M-POL202	200	講義	4	○	幕末から冷戦後の今日に至る日本政治の流れを国際環境に関連した資源全般の問題につき、広く、そしてできるだけ深く勉強し、日本の政策の注視点、世界の主要国の動向を考察する。	明治維新以降の日本政治の流れを理解することによって現在の日本政治をみる眼を養うことを目標とする。特に国際環境の変化と日本の政治権力の相互作用の観点から日本政治が理解できるようになる。	◎			○	○
	日本外交論	M-POL215	200	講義	4		戦前から戦後、そして今日に至るまでの日本外交を、国際環境、国内要因、政策決定者個人々のレベルから概観する。	日本外交の史的展開を把握し、戦後主要各国と日本の2国間関係を理解し、今日の日本外交の主要課題(領土問題や歴史問題)について考察を深める。		◎		○	○
	日本社会文化論	M-POL210	200	講義	4	○	日本文化を特徴付ける、「幽玄」「わびさび」ものあわれみなどのさまざまな価値観や美意識を古代から現代にかけて概観し、日本社会の歴史的特質について一貫した理解を得る。	日本人の価値観や美意識を歴史的に検証することにより、(1)日本文化の特質や独自性を説明することができる。(2)日本社会の構造や成り立ちを把握することができる。(3)現代における思想上の諸問題について新たな視点を得ることができる、ことなどを目標とする。			○		○
	日本の安全保障	M-POL307	300	講義	4		国際秩序の変容を念頭に敗戦から現在に至る戦後日本の安全保障政策の歴史的展開を辿りながら今日の日本の安全保障問題を考えることを目的とする。	日本の安全保障について歴史、政策、理論から学ぶことによって、日本の安全保障のあり方について自己の見解をもてるようになることを目標とする。	◎			○	○
	日本経済論	M-ECN326	300	講義	4		景気の見方や経済指標の見方について解説するとともに、日本経済が抱えている問題を解説することにより、日本経済の現状を理解・分析するための基礎的な知識を習得し、それに基づいて日本経済が直面する問題点を理解し、そのための処方箋を考えることを目的とする。	日本経済の現状を理解するために必要な主要経済指標、および日本経済の分析手法に関する知識を習得し、それをもとに日本経済が直面している問題点について学び、それらを自らの言葉で説明できるようにする。日本経済を活性化するための政策を立案する能力を身に付けることを目標とする。			◎		○
	アメリカ社会文化論	M-ARS204	200	講義	4	○	アメリカの「社会と文化」を、主に大衆文化を中心に考えて、アメリカのエクスタブリッシュメントの中心価値となっている「主流文化」と、若者や女性、マイノリティが担い手の「対抗文化」という二項の「綱引き」の図式を念頭に考察する。	アメリカ文化は「主流文化」と「対抗文化」がせめぎ合い、綱引きを繰り返しているという認識のもと、これら二項を理解し、アメリカの歴史・社会・文化についての基本を踏まえて、アメリカ文化を「消費する」ことについても理解する。			○		◎
ヨーロッパ社会文化論	M-ARS211	200	講義	4		現代ヨーロッパの諸事情について、その歴史的背景に遡って考察し、知識・認識を深める。	現代ヨーロッパの諸事情について、その歴史的背景に遡って考察し、知識・認識を深める。	○		○		◎	